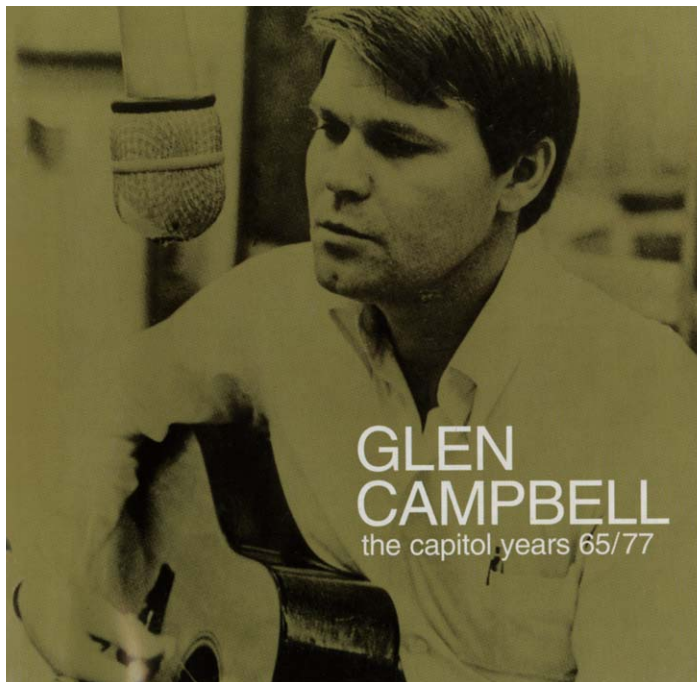


# Music

お尻とグレン・キャンベルの「ギャルヴェストン」

Text & Photos: George Cockle  
文・写真/ジョージ・カックル



音楽は脳裏にさまざまな思い出を呼び起こす。その曲を初めて聴いたときの空間や状況、その時つきあっていた彼女……。でも逆に、ひとつの出来事がある曲を思い出させてくれることもある。まさに昨日がそうだった。海に入っていたら、俺が小学生の頃に聴いた曲が頭の中をよぎった。その曲はグレン・キャンベルの1969年のヒット曲「ギャルヴェストン」。(この曲を最初にレコーディングしたのはあのハワイのドン・ホーだったけど、ヒットさせたのはグレン・キャンベル。)

海に入ろうと思ったら、俺のウェットスーツの背中に小さな穴が空いていたんだ。実際、外はそんなに寒くなかったから、そのまま海に入った。そこのサーフポイントはグーフィーで俺にとってはバックサイド。一本目、いい波に乗ったら、後ろから俺の背中に大きなリップが落ちてきた。その勢いで、500円玉ぐらいの穴が1000円札ぐらいの穴になってしまった。水がガッツリ入ってきたからわかったよ。でも、波が良かったから上がらないで、またもう一度沖へ行って波を待った。次の波に乗ったら、今度はもっとお尻が涼

しくなったんだ。気づいたら、穴がすごく大きくなっていて、お尻が丸見えだった。その場にいた人によると、俺の宝物も出ていたみたいだ。さすがに海から上がったよ。そして、そばに住んでいる友達からタオルを借りて自転車で家に帰った。

なぜこのこととグレン・キャンベルの「ギャルヴェストン」が関係あるかって？ それは俺が小学6年生のとき、家族と一緒にテキサスの海辺の町、ギャルヴェストンに行った。その頃、この曲がヒットしていて、よくラジオでかかっていたんだ。ある雨の日、家族と食事をするようになって、俺はシーフードが嫌だからと言って、家族がレストランで食べている間、その海沿いの店の入り口で暇をつぶしていた。(馬鹿だよな、今考えてみるとどんなシーフードレストランでも、ハンバーガーはあるんだから……。)その時、暗闇の中からウェットスーツを着た二人のサーファーたちがサーフボードを持って歩いてきた。前を通り過ぎたら、そのひとりのウェットが破れていて、彼のお尻が丸見えだったんだ。でも、なぜかわからないけど、それが

かっこ良く見えたのを覚えている。

そう、俺も昨日お尻が丸出しになったとき、その当時のテキサスのことを思い出したんだ。そして、その町の曲「ギャルヴェストン」も。

グレン・キャンベルと言えば、カントリーのイメージがあるけど、彼の曲はただのカントリーじゃなくて、ポップなんだ。だからポップのジャンルにもチャートインしていた。グレン・キャンベルは何曲もヒットを出している。「バイ・ザ・タイム・アイ・ゲット・ツウ・フェニックス」とか「ジェントル・オン・マイ・マインド」とか、聞いたらきっとみんな知っている曲だと思う。

曲が思い出を蘇らせることもあるけど、思い出が曲を持ってきてくれることもある。今日のことを思い出すがあったら、どんな曲がバックに流れるだろう？ そういえばギャルヴェストンをテーマに原稿を書いたな、なんて思いながら、鼻歌を歌うかもしれないね(笑)。



ジョージ・カックル ●60~70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。  
www.whatsupmusicinc.com